

2019年6月に国際生化学分子生物学連合の命名法委員会 (NC-IUBMB) は、酵素番号 (EC番号) に EC7 (Translocase) を新設し、2020年2月に日本生化学会は EC7 である Translocase の和名を「輸送酵素」と提案しました。ついては、本書に以下の情報を追加いたします (赤下線)。

3章「酵素」 3節「酵素の分類」

・ p.57 表 3-1 酵素の分類

分類	代表的な酵素
酸化還元酵素 (オキシドレダクターゼ)	乳酸脱水素酵素, ピルビン酸脱水素酵素
合成酵素 (リガーゼ)	グルタミン酸合成酵素, ピルビン酸カルボキシラーゼ
<u>輸送酵素 (トランスロカーゼ)</u>	<u>Na⁺-K⁺ポンプ, Ca²⁺ポンプ</u>

・ p.57 plus α EC 番号 (酵素番号) 8 行目

(EC6), 輸送酵素 (EC7) といった大分類に加え,

・ p.58 本文 4 行目の下に追加

⑦輸送酵素：イオンや分子の生体膜を横断した移動を触媒する酵素。ATP のエネルギーを利用して、Na⁺や Ca²⁺を能動輸送するポンプなどが含まれる。

参考文献：日本生化学会。“新設された酵素分類 EC7 の和名提案について”

https://www.jbsoc.or.jp/seika/wp-content/uploads/2020/02/EC7_Translocase_WG.pdf ,

(参照 2022-03-10).